

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

8

No.774

P2 特集

「ストップ・ザ・無縁社会」絆つなげる明日へつながる⁽²⁷⁾
住民同士の支え合いの大切さ

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ! 全県キャンペーン

P7 みんなでつくるひょうごの福祉
パンから広がる地域のつながり
～福祉事業所と住民との協働による福祉のまちづくり～

P8 あなたのまちの社協ナビ
西脇市社協
地域での集いの場づくり～サロン活動へのサポート～

P9 まちとつながる・住民とつながる! 企業・NPOの地域づくりレポート
但馬をひとつに、温かい笑顔で迎え入れる
一遊月亭 株式会社但馬寿一

P10 ひょうごの福祉NOW

P11 みんなの広場

P12 インフォメーション

8月は「人権文化
をすすめる県民運
動推進強調月間」
だよ!

稲美町

天満大池公園



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。



「ストップ・ザ・無縁社会」 絆つなげる 明日へつながる^{②7} 住民同士の 支え合いの大切さ



世帯の単身化や高齢化に伴い、既存の制度では対応の難しい生活の困り事を抱える人や、社会的に孤立している人の支援が課題となる中、住民同士の支え合いや地域でのつながりが求められている。一方で、そのような地域づくりを住民だけに任せるのではなく、各市町において住民の主体性を重視した仕組みづくりも求められている。

今回の特集では、県内の事例を通じて、住民同士の支え合いの意義について考える。

生活上の困り事とは

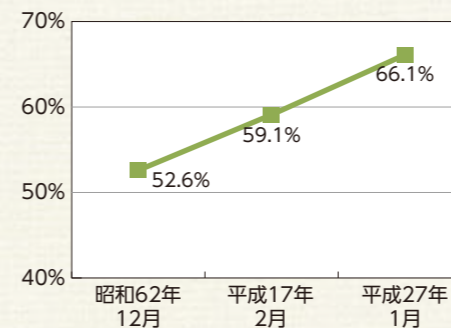
高齢者世帯や単身世帯、ひとり親家庭が、病气やけがをきっかけに「ごみ出しや買い物、これまでのようにできなくなったが、近所の人に頼める人はいないし、どうしたらいいか困っている」という話を聞いたことがないだろうか。図表1は、一人暮らしの高齢者が抱える生活上の主な困り事を表しているが、一人暮らしの高齢者に限らず、近隣のちよとした支え合いの関係もなく、

■図表1 一人暮らし高齢者世帯が生活行動の中で困っていること

家の中の修理、電球交換、家具移動	41.7%
掃除	19.7%
買い物	16.7%
散歩・外出	15.0%
食事の準備、調理等	14.7%
通院	14.2%
ごみ出し	12.0%

みずほ情報総研株式会社「一人暮らし高齢者・高齢者世帯の生活課題とその支援方策に関する調査報告書」(平成24年3月)より抜粋

■図表2 「何か社会のために役立ちたい」と思っている人の割合



誰にも相談できずに、課題がより深刻になってから表面化するケースがあることが大きな社会問題となっている。

このため、住民同士のつながりづくりや緩やかな見守り、ちょっとした困り事の支え合いなど、地域で安心して暮らし続けるための取り組みが求められている。

一方で、定年退職した人や、子育てを終えた人などの中には、「自分が少しでも地域の役に立てることがないか」と考える人が増えつつある(図表2参照)。

住民同士が「支え、支えられる」という双方向の関係の中で、地域で生きがいを持って暮らすことのできる地域づくりが求められている。

内閣府「社会意識に関する世論調査」(平成27年1月調査)より抜粋

支え合い活動の事例から

では、住民同士の支え合いは地域で実際にどのように行われているのか。県内の事例を通じて見てみたい。

事例1 サロンから始まった見守り活動 ～淡路市若屋長浜町内会～

長浜町内会は、人口約260人の地縁や血縁によるつながりが比較的強い地域だ。ここでは、月1回のふれあいサロンの後、「最近、〇〇さん見ないなあ」「入院してるらしいわ」といった話し合いが行われている。話し合いに参加しているのは、プライバシーに配慮して、町内会長と民生委員・児童委員、サロンボランティアと老人会長という限られたメンバーだ。

きっかけは、地区で相次いだ孤立死。当時の自治会長は、「誰がどこに住んでいるかよく知っているし、



「最近どないしているの?」など、ちょっとした会話が見守りにつながる

家も密集しているから、まさか3件も孤立死が起きるとは思っていなかった。しかも一人は50歳代の一人暮らしの男性。高齢者でないからと安心して「た」と振り返る。

この話し合いは、地域で安心して暮らすために「自分たちでできることではないか」という思いから、自然と始まったもの。サロンの欠席者だけでなく、住宅地図を使いながら、自分たちが「気になっている人」の情報を共有し、地図に落とし込んでいく。



気になる人を地図上で可視化することで、災害時の避難支援に生かされる

また、話し合いに同席している社協のケアマネジャーは、「ここに参加すると、一人暮らしの中年男性のように、見守りの対象にならない人の異変など、私たちが知らないことを教えられることが多い。地域のごがよく分かる」と語る。サロン運営者の一人、民生委員・児童委員の上野あけみさんは「一人では支援の必要な人を支え切れない。私たち一人一人が気付いたことを、町内会や社協と共有する場はとても大切」と力強く話す。

事例2

支え合いを通じて顔なじみの関係を育む～豊岡市但東町「合橋地域づくりの会」～

2年前、合橋小学校区(合橋地域づくりの会)に、住民同士の支え合い活動をする「生活支援部会」が設置された。その背景には、一人暮らしの高齢者や、免許を返納して移動が困難になった高齢者が増えているという住民の問題意識があった。「自分もいずれは老いる。行政だけに任せず、自分たちでできることはやろう!」と住民自身が立ち上がった。

まずは、一人暮らし高齢者が何に困っているのか、生活支援部会のメンバーが実際に聴き取りを行った結果、ごみ出しや草抜き、家具の移動、日用品の買い出しなどに困っていることが明らかになった。これを受けて、日々の困り事を手伝う「まごの」活動を始めた。

活動の一つである買い物支援は、「買い物ツアー」と題して、複数人で出掛けるスタイルで始めた。このツ



アーには、買い物に行きたい人だけでなく、道中のおしゃべりを楽しみに利用する人、外出そのものを楽しみたい人など、さまざまな目的の人が参加して住民の交流の場となっております。

この取り組みは、生活支援部会のメンバーに加え、定年退職した人や現役で働く人を含む20〜70代のさまざまな世代の住民が協力し合



一人ではできない家具の移動もメンバーがお手伝い



付き添いの活動者と相談しながら買い物

つて実現している。

部会長の大石博士さんは「田舎だが、普段の付き合いが少なかつた。顔なじみの関係があつて初めて共助の気持ちが出てくる。これからもたくさんの方が参加したいと思えるような活動を通じて、次世代を育てたい。それが生きがいになっている」と力強く語る。

事例3

「支え合いの地域づくりを目指して〜宝塚市「中山五月台六丁目」「すけっと」システムすけっと〜」

中山五月台六丁目の集合住宅団地では、自治会や管理組合で知り合った有志が、「ここでずっと住み続けたい」という強い思いから、メンバーで学習会や団地内のニーズ調査などを行い、10年前に支え合い活動を始めた。

活動の内容は、ごみ出しや通院、買い物代行といった「生活支援」の他、家具の修理や衣類の裾上げなど、メンバーの得意分野を生かした「技術系支援」だ。メンバーの中に

は、病気の妻の外出支援を利用していた夫が「自分もこれなら手伝える」と活動に加わった人もいる。

さらに、団地周辺のパトロールや、子どもから高齢者まで集える「すけっと広場」の開催、団地の子どもらに通う小学校で一緒に畑を耕す「里山活動」など、幅広く活動を展開している。

代表の井原利夫さんは、「里山活動で子どもや親とも交流ができるようになり、顔の見える関係が広がってきた。このことがきっかけで、困っている人を見掛けたらすけっとにつなげてくれるようになった。地域の意識が変わってきたように思う」と語る。

「生活支援の利用者の中には「顔見知り」に支えられて安心できる。最新までこの団地で住みたい」と、体が不自由になっても一人で暮らす高齢者もいるという。

井原さんは、「住民同士の信頼関係は、顔が見える関係がベース。今後は、団地内のさまざまな人が触れ合い、親しくなるような

事例から見えること

住民同士の主体的、自主的な支え合いを通じて、安心して暮らせる地域づくりを進めるには、何が必要なのか。3つの事例から見えてきたポイントは以下のとおりである。

①顔の見える関係づくり

住民が近隣同士で気に掛け合えるようになるためには、名前や顔、人となり分かるような顔の見える関係性が求められる。顔が見える「つながり」があつて初めて、体調不良でサロンに来られない人に「帰りに声を掛けてみよう」と思えるのではないだろうか。

このような関係性をベースにした住民の見守りは、「監視」ではなく「見守られている」という安心感を持つて地域で暮らせることにもつながっている。

また、自治会や地域のボランティアグループが、電球交換やごみ出しの支援を行う場合でも、全く知らない人には頼みづらいものである。顔

が見えるつながりがあり、そこに信頼を寄せられるからこそ、「頼んでみよう」と思うものである。

②話し合いから生まれる

各事例で共通して見られたように、住民同士が地域の生活・福祉課題やどういった地域にしていきたいかなどの思いを話し合う場が継続的に設けられている。

このような場を通じて、個々の住民が気付いている問題をお互いに共有し合うことで、新たな気付きが生まれることにつながっている。

日々の生活の困り事を個人の課題に終わらせず、地域全体の課題として捉え、協議するというプロセスが大切である。

③小地域での共助の仕組み

各事例の見守りや話し合いは、地域の困り事や「気になっている」人の変化にいち早く気付き、対応できるように、住民同士の「顔が見える」身近な範囲で行われている。

早期発見・早期対応ができる範囲だからこそ、「自分たちの問題」としての活動につながることを考えれば、「隣保・近隣」「自治会・町内会」な

どといった「小地域」で助け合う仕組みが重要である。

④住民と専門職との連携

地域には、生活上のちょっとした困り事だけでなく、専門的な介護を要する人や制度の狭間で支援を必要としている人たちが抱えるさまざまな生活・福祉課題が存在している。

それらは、住民同士の支え合いだけでは解決が難しいものもある。地域の住民と専門職が連携し、住民の支え合いを専門職が補完する体制があることで、住民は安心して活動を行うことができる。

また、ケアマネジャーなどの専門職は、それぞれの利用者に関する情報は持ち得ていても、日常生活を送る中で小さな変化には気付きにくい。専門分野外の課題への対応がしにくいのも現状だ。

専門職が住民の話し合いに参加して地域の状況を学ぶなど、住民と専門職が双方の情報を共有し合うことが重要である。

祭りも定着させたい」と目を輝かせている。



団地内にある集会所で開催される「すけっと広場」



小学校での里山活動。緑のジャンパーは「すけっと」のトレードマーク

誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりへ

初めは「誰かのために」活動していたことが、いつしか自分自身の「生きがい」となる。地域の中で生き生きと活動する住民からは「こういう声も聞こえる」。

また、いずれの事例からも、公的な制度の有無にかかわらず、住民が主体的に活動することで気付きが生まれ、その気付きや思いを共有し、住民同士が力を合わせることで、安心して暮らし続けられる地域づくりにつながっていく様子を見ることができた。

住民自身が必要と感じたところに活動が生まれる。そこそが住民同士の支え合いの意義といえるのではないだろうか。

今後、このような住民同士の主体的な話し合いや活動に、専門職や行政も協働することで、自分たちの地域にあった支え合いの仕組みづくりを進めていくことが期待される。

丹波市でパンを販売している「ら・ぱん工房 来古里」は、開設前から地域住民の皆さんが関わっているんだ。中にはボランティアだけで運営する喫茶もあって、地域で待ち望んでいた交流の場になっているんだって。今回は、福祉事業所を拠点に、障害のある人と住民とで始めたまちづくりの取り組みを紹介するよ。



みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

事業所の立ち上げに 地域住民が関わる

平成27年3月、丹波市市島町に「ら・ぱん工房 来古里」が就労継続支援B型事業所として開所した。同町出身で代表の高見忠寿さんは、神戸の「くららベーカリー」で障害者支援とパン作りの経験があり、古里に貢献したいとの思いから事業所の立ち上げを計画。地元で詳しい旧知の木寺正さんから助言を受ける中で、木寺さんが物件探しを手伝うようになり、丹波市森林組合の倉庫を借りることができるようになった。

倉庫の先には保育所統合で園児のいなくなった園舎があるなど、元々この地域では遊休建物の活用が課題とされており、地域の活性化に向けて気軽に集える場がほしいという住民の思いがあったという。木寺さんは今回の事業所開設を好機と捉え、建物内に喫茶「かもん」をつくることを提案。高見さんも障害のある人と住民との交流を図りたいと考えていたことから、これを歓迎した。

パンから広がる 地域のつながり

～福祉事業所と住民との協働による福祉のまちづくり～

その後、高見さんは利用者の掘り起こしに奔走し、木寺さんも知り合いにボランティアを依頼。こうして利用者、ボランティア、地域住民の集まる福祉事業所がオープンした。

交流から始まるまちづくり

当初はパン作りを覚えてもらうだけで大変だったが、今では得意作業を分担し、利用者だけでラスクを作ることができるようになった。「サービスを受ける側と思われている障害者も、パンを販売していればサービスを提供する側と想ってもらえるのでは」と話す高見さん。その思いに呼応するように、「近くに買い物をする店がなかったのうれしい」という地



(写真上) 開店に向けて準備するスタッフ
(写真下) 「村の人は全員知っている」と笑顔で話す木寺さん(右)

域の反応も聞かれるようになった。

喫茶では、「農作業帰りに長靴のまま寄るのがいい」「わざわざ着替えて来んでもええから楽や」と気楽さが評判を呼んでいる。「仕切りを作った喫茶を別にするのはなく、障害のある人も地域の人も同じ空間にすることが大事。ふれ合いが障害への理解につながる」と語る高見さん。事業所名の「ら」は「くららベーカリー」からもらったもので、「僕ら私ら」の意味がある。「みんなのパン屋さん」という意味が込められた福祉事業所は、地域の交流拠点として着実に根付きつつある。

取材を終えて

福祉事業所の「誘致」により、住民の買い物先が増え、自由に使える交流の場もでき、ボランティアの活動場所ができるなど、福祉でまちづくりができる事実を目を見張ります。障害のある方と関わることで当事者理解も進み、より関係性の豊かな地域になっていくことでしょう。

ら・ぱん工房 来古里
丹波市市島町上牧703
TEL 0795-86-8177

「ストップ・ザ・無縁社会」 広がれ! 全県キャンペーン

<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

TOPICS

総会・講演会を開催します!

今年度で最終年度を迎える「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの総仕上げに向けて、下記の通り推進協議会の総会・講演会を開催します。皆さまのご参加をお待ちしています!

※推進団体の皆さまへは別途ご案内するほか、開催要綱・申込用紙は専用ホームページ(<http://www.stop-muen.jp/>)でも掲載します。

平成27年度総会・講演会

日時 平成27年9月13日(日) 13:30~16:00

場所 新神戸オリエンタル劇場
(神戸市中央区北野町1-3)

内容 13:30 推進協議会総会
14:30 講演会「米朝一門と家族の絆~無縁社会から、支え合う社会へ~」(仮題)
講師: 桂 米圃治氏(落語家)



寄付のお礼

7月14日、大同生命保険株式会社(以下、「大同生命」)およびAIU損害保険株式会社(以下、「AIU」)から、「ビッグハート・ネットワーク」※による社会貢献として、現金746,200円の寄付をいただきました。

当日は、大同生命執行役員近畿地区営業本部長の小林康弘氏およびAIU西日本地域事業本部長の真島章紀氏より目録が贈呈され、武田会長より感謝楯の贈呈を行いました。いただいた寄付金は、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの推進に役立てていきます。



※納税協会の紹介により企業が専用の総合保障制度に加入した場合、受託会社である大同生命とAIUがその収益の一部で社会貢献事業を実施するもの。

県社協の3部会でキャンペーンの展開を議論!

県社協で7月8~10日に開催された地域福祉推進部会、権利擁護部会、福祉事業推進部会において、全県キャンペーンの今後の展開について協議いただきました。以下にその概要をお伝えします。

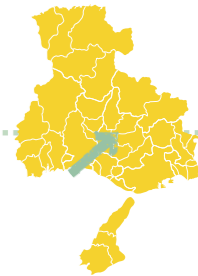
- 社会的孤立などが大きな社会問題となる中で、フォーラムの開催などを通じて「ストップ・ザ・無縁社会」が浸透してきた。何らかのかたちで継続していくことが必要だと思ふ。
- 「地域包括ケア」の前提となる地域社会そのものが無縁社会では支援も進められない。個人情報保護や制度の狭間の問題など、一歩踏み込んだアプローチが必要である。
- キャンペーンの推進の中に、「文化」という側面を入れることも考えていくべきではないか。
- キャンペーンにおいて言葉は大切。キャッチコピーとして、ポジティブなメッセージで地域のつながりを意識した発信を進めていただきたい。

推進団体の参画について

このたび、新たに下記の団体より、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会への参画の申し出をいただき、推進団体は237団体となりました(7月27日現在)。全県キャンペーンでは、300団体を目標に、引き続き推進団体を募集しています。参画のお申し出は、事務局(兵庫県社協、TEL 078-242-4633)までご一報ください!

新たに参画した団体(順不同)

- 児童養護施設いながわ子供の家、姫路市保育協会、幼保連携型認定こども園菟学園、社会福祉法人善照学園、社会福祉法人南但愛育会、社会福祉法人信和学園、児童養護施設アメニティホーム光都学園、児童ホーム東光園、社会福祉法人ジェイエイ兵庫六甲福祉会、社会福祉法人社友会、白鳥南保育園



地域での集いの場づくり ～サロン活動へのサポート～

西脇市社協では、第2次地域福祉推進計画で「もっとええまち・西脇～だれもが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を基本理念に掲げ、助け合い・支え合い体制の充実を図るため、住民が取り組む「ふれあいいいききサロン」の立ち上げ支援や継続的な運営のサポートを行っている。

サロンづくりへの働きかけ

社協では、自治会単位での「ふれあいいいききサロンづくり」を応援し、閉じこもりがちになる高齢者や子育て中の親子の交流の場を増やしている。

現在市内では、87自治会中66カ所でサロンが開催されており、その数は年々増加している。これは、サロンに興味のある住民やサロン運営者を対象とした意見交換会を開催し、自分たちの地域にあった集いの場づくりを考える機会をつくってきた成果である。

また、住民が集まる意義や効果、活動を進めていく上での留意点をまとめた『ふれあいいいききサロンの手引き』も作成し、立ち上げの後押しをしている。



手引きには企画に関するQ&Aも掲載

住民目線で「困った」から「楽しい」に転換を

サロンが立ち上がっても、その活動が地域に根付かなければ意味がない。住民自身が無理なく楽しみながらサロンの運営を続けられるよう、困ったときの側面的支援が重要となる。

そのため、プログラムのマンネリ化に悩むという声に応え、住民の関心の高い「健康維持」や「食事」に関して、血圧計などの貸し出しや講師派遣も行うとともに、助成制度を設けて資金的なバックアップも行っている。

また、広報紙にボランティアが作成した『ぽっかぽか通信』を盛り込み、サロンの様子などを住民目線で発信していることも特徴だ。手書きで味のある通信から、「自分たちの地域の様子が知れてうれしい」「サロンをやってみたい」との反響も。

地域での助け合いを行っていくためには、住民が互いに顔なじみになり、日々の会話の中から生活の困りごとや気になることを話し合うことが大切である。サロンでの交流が、助け合いの地域づくりに発展することが期待されている。



南本町和楽会での転倒防止体操の様子

取材を終えて

サロンに参加している皆さんの笑顔と、体調をお互いに気に掛ける姿が印象的でした。社協によるサロンへの支援が、「最近外出がおっくうになった」など、小さな変化に気付くきっかけづくりにつながっていると改めて実感しました。

会長から 西脇市社会福祉協議会 会長 大久保 恵司

西脇市は少子高齢化・核家族化が進み、高齢化率が30%を超えました。このような中、西脇市社協では、「もっとええまち・西脇～だれもが安心して暮らせる福祉のまちづくり～」の実現に向け、自治会単位で高齢者が集い、心身共に癒されるような『ふれあいいいききサロン』の開催を支援しています。高齢者が引きこもらないよう、みんなで話し合い、工夫を凝らし、地域住民同士の絆を深めてもらえるようお手伝いをしています。これからも、市民と共に考え、市民に信頼され、愛される社協を目指し、これからの超高齢社会に備えたいと思っています。



まちとつながる・住民とつながる!

企業・NPOの地域づくりレポート

「客と、おばあたちが
一緒に楽しめる空間」

但馬をひとつに、温かい笑顔で迎え入れる
人に会いにきてもらおう観光を目標して — 遊月亭株式会社但馬寿 —

新温泉町で観光土産の製造・販売を営む遊月亭株式会社但馬寿では、同社を定年で退職した女性たちが結集して、但馬地方に受け継がれてきた郷土食の知恵を若い世代に伝える「アンテナショップ」おばあかふえをオープンした。湯村温泉街の古民家を活用した店内は、観光客がかつぽう着を着た元気なおばあたちとおしゃべりしながら、黒豆茶や名物の栃おはぎを楽しむことができる空間となっている。

同社のモットーは、自由のびのびと働くことと、一人一人が主体性を持って働くエンターテイナーであること。「おばあかふえ」でも、自分の特技を生



「おばあ」たちのポジティブな力が、地域を元気にする

かした手作りの作品を販売し、皆で協力して支え合いながら、それぞれの長所を伸ばしている。

「仲間が集まれる場所があるのはいい。ここに出て来れることが一番の楽しみ。お客さんと楽しくおしゃべりや情報交換をしながら、毎日生き生きと働かせてもらっています」と、おばあたちは語る。ただ物売りのではなく、温かい笑顔で客を迎え入れながら、人に会いにきてもらおう観光を目標している。

一人と人がつながり、地域をひとつに

常務取締役の久村謙藏さんは、「各地域がそれぞれで頑張るのではなく、但馬全体がひとつになって盛り上げていきたい」と、さまざまな活動に取り組んでいる。「おばあかふえ」のほかにも、地域の「おばあ」のいるお店を紹介する「おばあまっぴ」や、方言・特産品をネタにしたご当地ソング、小学校や地元の人・企業の協力を得ての映画などを制作。また、常務自身が仲間と立ち上げた、但馬無駄武将は、人と人のつながりが楽しくスムーズになるよう、甲冑の衣装でいろん

ないイベントに参加して会場を盛り上げている。

さらに、社屋の古民家に地域の人を招いて、流しそうめんなど季節に応じたイベントを行ったり、但馬の福祉作業所で作られた小物などを購入して通販の購入客にプレゼントしたりと、活動は多彩だ。「各地域で点と点をつくりながら、徐々に地域の人たちに受け入れられてきた。今後はそれらを線でつなげて大きくしていきたい」と意気込む久村さん。同社の取り組みは、地域の人たちが社員自身にも元気を与えている。



広大な但馬國の統一を目指して地域を盛り上げる「但馬無駄武将」

遊月亭株式会社但馬寿
所在地 美方郡新温泉町細田6-9
TEL 0796-92-2366
URL <http://www.yuzukitei.com/>

第54回社会福祉夏季大学

日時 平成27年8月27日(木)13:00~16:35
会場 神戸芸術センター 芸術劇場(神戸市中央区熊内橋通7丁目1-13)
参加対象 地域福祉に関心のある人(定員600人)
聴講料 一人3,000円

時間	内容
13:00	開会
13:20~14:20	基調講演 「人口減少社会と地域社会の未来 ~“無縁社会”の克服に向けて~」 講師:藻谷 浩介氏 (株式会社日本総合研究所主席研究員)
14:30~16:30	パネルディスカッション 「これからの福祉社会の方向性 ~地域再生とつながりのまちづくり~」 パネリスト: 藻谷 浩介氏 後藤 千恵氏(NHK解説委員) 早瀬 昇氏 (日本NPOセンター代表理事、大阪ボランティア協会常務理事) コーディネーター: 牧里 每治氏(関西学院大学人間福祉学部教授)
16:35	閉会

問い合わせ先 兵庫県社会福祉協議会 総務企画部
 TEL 078-242-4636
<http://www.hyogo-wel.or.jp/>



撮影:©菅田(わいだ)純一氏

これからの福祉社会の方向性は 「社会福祉夏季大学開催」

少子化・高齢化の進展等により、「人口減少」が大きな社会問題として注目される中で、これからの福祉社会づくりの方向性を共有する機会として、第54回社会福祉夏季大学を開催する。

パネルディスカッションでは、社会の新しい局面における持続可能な

な福祉社会づくりに向けて、地域住民やボランティア活動団体、私の社会福祉関係者などの幅広い主体が協働して進める、地域全体が元気になるまちづくりの在り方について、各地の活動事例を交えて議論いただく予定です。

開催要綱等は、本会ホームページに掲載していますので、多くの方の参加をお待ちしています。

3部会で 政策提言を議論!

県社協では、7月8~10日に地域福祉推進部会・権利擁護部会・福祉事業推進部会を開催した。当日は、平成28年度の兵庫県社会福祉政策への提言に関する内容について議論を行うとともに、県社協の次期中期計画である「2020年計画」の策定に向けて、「2015年計画」の成果と方向性について協議を行った。

政策提言は、市町社協、施設種別協議会、福祉団体等から寄せられた提案項目について、情勢動向等を踏まえながら、下記の6つの重点提言を中心として取りまとめたもの。本部会での協議を踏まえ、8月の県知事への提言活動を皮切りに、各関係団体等に対して提言活動を展開していくこととなる。

また、「2015年計画」については、部会員より左記の意見が出された。今後、アクションプランの検討などを進めていく予定です。

【各部会で出された意見】

- 権利擁護部会(7月8日)
 - 福祉学習に関連して、アイマスクや車椅子体験はよくあるが、知的障害の体験について県内でも取り組みが始まっている。啓発の意味も込めて積極的に取り組んでほしい。
 - 見守りや相談支援において関係機関につなぐ役割を担う民生委員の質の向上は大切である。
 - 生活困窮の相談でも、生活福祉資金の活用だけでは解決しないケースがある。行政や関係機関などとのネットワークをどうつづけていけるかが課題である。
- 福祉事業推進部会(7月8日)
 - 職員の専門性向上のためには、福祉の仕事のイメージアップなど社会的評価の向上が必要。現状では職員のモチベーションが上がらず、人材確保も難しくなっている。
 - 種別協でも独自に就職フェアの取り組みを始めているが、県社協などの大きな枠組みでの対応もやはり必要である。
 - 職員育成は大切だが、研修中の職員の穴を埋める人材が足りず研修に出せない。県社協には出前研修も検討いただきたい。
- 地域福祉推進部会(7月10日)
 - これまでは行政の地域福祉計画と社協の地域福祉推進計画が別々に策定されていたが、両者を一体的に策定することにした市町もあり、位置づけの整理が必要である。
 - 行政の中で災害ボランティアセンターの位置付けが十分でない。行政と社協の協定などが全県的に進められることが必要である。
 - 最近ではトライやるウィークで福祉施設等に来る人数が少ない。子どもが家庭で祖父母の看取りをする機会も無くなった。次の世代を担う子どもたちの福祉意識を向上していくため、学校教育に福祉を入れ込むことはできないものか。

「6つの重点提言」

- 1 地域包括ケアシステムづくり
- 2 生活困窮者支援
- 3 災害時の支援体制の強化
- 4 権利擁護の推進
- 5 福祉人材の確保と育成・定着及び資質向上
- 6 社会福祉法人の「地域における公益的な取組」の全体的推進(新規)

就職フェアを 効果的な採用ツールに 「福祉人材確保・ 定着力向上研修を開催」

6月19日、県福祉センターにて「福祉人材確保・定着力向上研修」を開催した。3回目となる今回は、「就職フェアを効果的な採用ツールにするための方策を考える」と題し、各地で開催される就職フェア当日のブース運営を念頭に置き、採用力向上に向けたスキル等を学ぶことを目的に開催した。

講師は、株式会社アイデム人と仕事研究所にて組織の人材確保や育成定着を専門としている小野山哲朗さん。当日は、「求職者からは就職フェアはどう見えているのか」「採用につなげるための求職者との

信頼関係を築くためには「法人の魅力はどうアピールするか」といった講義を交え、グループごとに分かれたの演習や情報交換の場も設けられた。特に「求職者を惹きつけるためのプレゼンテーションスキル」を学ぶ時間では、就職フェアで求職者にブースへ来てもらうための説明内容やスキルをグループ内で協議し、その結果をプレゼンテーションとして披露(写真)。参加者は自法人の説明の参考にすべく熱心に聞き入っていた。

福祉人材確保が喫緊の課題となる中、就職フェアの重要性はますます高まっている。いかに自法人の強み・魅力を求職者にアピールし、より多くの採用へと結び付けられるか、参加者一人一人が改めて考える機会となった。



自法人の魅力アピール!

みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

社協の事業活動を本にしました!

社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会

宝塚市社協では、神戸学院大学藤井博志教授の監修の下、宝塚市社協のこれまでの事業の歴史や地域福祉実践をまとめた「市民がつくる地域福祉のすすめかた」を、全国コミュニティライフサポートセンター(CLC Japan)より発行しました。

本書では、「宝塚市社協が展開する『住民主体』の地域福祉実践のマネジメントの実態とは」「在宅福祉サービス事業メインから総合的な地域福祉推進へ転換した背景には何がかったのか」などについて社協職員らで執筆を分担。創立60周年を期に、これまでの事業を振り返る機会を得て、広範な事業活動を整理してまとめました。

ぜひ、本書を地域福祉活動の推進を図る皆さまのご参考にしていただければと思います。本書を通じて、皆さまを宝塚市の地域福祉へご案内いたします。



「住民主体」を
実践の根幹に
据えた成果を
紹介!

ご購入はCLC Japanホームページよりお買い求めいただけます。

URL <http://www.clc-japan.com/>

定価 2,000円+税(送料別途)

連絡先

社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会
 〒665-0825 宝塚市安倉西2丁目1-1
 TEL 0797-86-5000 FAX 0797-86-5069
 URL <http://homepage1.nifty.com/takarazukashakyo/>

アピールしたい活動の
情報をお寄せください。

問い合わせ

兵庫県社協 総務企画部 TEL 078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

公益財団法人木口福祉財団
平成27年度被災地復興助成

東日本大震災で被災された障害者の支援活動に助成します。

対象団体 福祉活動やボランティア活動に取り組む団体・グループ(法人格の有無は不問)

対象事業 ①活動助成(東日本大震災で被災された障害者の生活復興支援を目的とするボランティア・市民活動)②施設整備助成(岩手県・宮城県・福島県の被災地域に拠点を置く障害者支援団体が事業に必要な建物を新築または改修する工事)

助成額 ①1件上限50万円②1件上限300万円(総額1,200万円)

締切り 平成27年8月27日(木)

☎☎公益財団法人木口福祉財団

TEL 0797-21-5150 ※お盆期間中を除く

URL <http://www.kiguchi.or.jp/>

公益財団法人大阪ガスグループ福祉財団
高齢者福祉助成

活力あふれる長寿社会を実現するため、助成を行います。

対象 高齢者を対象とする地域福祉活動や高齢者自身の社会参加活動あるいはそれを支援する活動等で、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市の社会福祉協議会の推薦を受けた活動(法人格の有無は不問)

助成額 1件上限25万円(総額1,150万円)

締切り 平成27年8月31日(月)必着

☎公益財団法人大阪ガスグループ福祉財団

TEL 06-6205-4686

☎上記の各社会福祉協議会

URL <http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/fukushi/>

公益財団法人大和証券福祉財団
平成27年度第22回ボランティア活動助成

ボランティア活動助成とボランティア活動等に関する調査研究助成を行います。

対象 高齢者、障害児・者、児童問題等に対するボランティア活動団体・グループ

助成額 1件上限30万円(総額3,500万円)

締切り 平成27年9月15日(火)消印有効

☎☎公益財団法人大和証券福祉財団

TEL 03-5555-4640

URL <http://www.daiwa-grp.jp/dsf/>

募集

心の輪を広げる体験作文

障害のある人となない人の心のふれあい体験を綴った作文を募集します(平成28年4月からの「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行に向けて、障害のある人への差別をなくすことで、障害のある人もない人も共に生きる社会をつくることについて書くことも可)

対象 小学生以上(特別支援学校の小学部、中学部、高等部の児童生徒を含む)

締切り 平成27年9月7日(月)必着

☎☎兵庫県健康福祉部障害福祉局障害福祉課
TEL 078-362-3192

URL <http://www8.cao.go.jp/shougai/kou-kei/boshu27.html>

のじぎく文芸賞

人権文化の進展と人権課題の解決に寄与する作品を募集します。

対象 兵庫県内に在住、在勤、在学の人

募集作品 小説・随想(手記・作文を含む)・詩・創作童話。部門ごとに一般の部(高校生以上)と学齢児童生徒の部(中学生以下)あり

締切り 平成27年9月10日(木)消印有効

☎☎公益財団法人兵庫県人権啓発協会「のじぎく文芸賞」係

TEL 078-242-5355

URL <http://www.hyogo-jinken.or.jp/>

公益財団法人ヤマト福祉財団
小倉昌男賞

障害者の仕事づくりや雇用の創出、拡大、労働条件の改善などを積極的に推し進め、障害者に働く喜びと生きがいをもたらしている人に贈ります。

賞 小倉昌男賞:雨宮 淳氏作ブロンズ像「愛」、副賞100万円

締切り 平成27年9月15日(火)

☎☎公益財団法人ヤマト福祉財団事務局

TEL 03-3248-0691

URL <http://www.yamato-fukushi.jp/>

2015年度コラボ・アート21

障害のある人々から絵画・陶芸などの作品を公募し、入選作品を展示します。

対象 障害のある人で関西圏に在住の人。個人・グループは不問。

締切り 平成27年9月4日(金)必着

☎☎コラボ・アート21事務局

TEL 080-5634-6500

URL <http://www.kepco.co.jp/corporate/csr/contribution/collabo/art2015/index.html>

ひょうご地域安全SOSキャッチ電話相談

日常生活の中で、地域の安全・安心にかかるといふ異変に気付いたら、お気軽に「SOSキャッチ電話相談」に通報・相談してください。専門機関や警察などに迅速・適切につなぎ、早期の対応を図ります。

TEL 078-341-1324 (いざっしょー)

開設日時 月~金曜 9:00~16:00(祝日、12/29~1/3を除く)※電話相談のみ

行事予定

8月	4・5日	全国社会福祉法人経営青年会 コーチングトレーニング講座 ◆県福祉センター
	10日	福祉サービス利用援助事業専門員・ 担当者研修会◆県福祉センター
	17日	生活保護査察指導員研修 ◆県社会福祉研修所
	19日	職場研修プレセミナー(播磨会 場)◆加古川市総合福祉会館
	26日	青年協第1回定例研修会 ◆県福祉センター
	27日	第1回市町社協活動推進協議会 総会◆神戸芸術センター 第54回社会福祉夏季大学 ◆神戸芸術センター
	27日~	老人福祉施設リーダーゼミナ ール(全4回)◆県社会福祉研修所
9月	2日~	チーム・マネジメントリーダー研修A コース(全4回)◆県社会福祉研修所
	5日	避難サポートひょうご 大交流会 ◆木口記念会館
	11日	市民後見推進研修◆神戸市勤労会館 職場研修プレセミナー(阪神北会 場)◆三田市商工会
	13日	「ストップ・ザ・無縁社会」全県キ ャンペーン総会・講演会◆新神戸オ リエントナル劇場
	18日	新任職員OJT担当者研修(実践 編)◆県社会福祉研修所
	25日	人事・労務管理研修(労務編) ◆県立のじぎく会館
	25日~	障害福祉施設リーダーゼミナ ール(全4回)◆県社会福祉研修所
	29日	チームアプローチ実践研修 ◆県社会福祉研修所
	30日	前頭側頭型認知症の家族交流会 ◆県福祉センター

おんせんとうまいもんでおもてなし  松葉ガニ、ホテルイカの
水揚げ量日本一、山陰浜坂!



写真は松会席の一例です

「松会席」で
平日1泊2食付き、
1室2名様利用の場合
大人お一人様(一般の方)
10,250円(税込み)



写真はあじさい定食の一例です

「あじさい定食」で
平日1泊2食付き、
1室2名様利用の場合
大人お一人様(一般の方)
6,950円(税込み)

浜坂温泉保養荘

〒669-6702 兵庫県美富郡新温泉町浜坂775
<http://www.hamasaka-ni.com/>

その他、いろいろなプランがございます。詳しくはHPをご覧ください!

TEL 0796-82-3645